

ジャンジャンジャンのセミの鳴き声とともに、南の方から梅雨明けです。
明後日は天神祭、いよいよ夏本番ですね。現在会員登録数 1,476 人さま。
ご愛読ありがとうございます。次号は 8 月 20 日発行の予定です！

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 47

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「第31回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（金）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#31boshu

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第28号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『わたしたちの島で』アストリッド・リンダグレン/作 尾崎義/訳

岩波少年文庫 2014年5月 対象年齢：小学校中学年以上

あらすじ：父親で作家のメルケル、19歳でしっかり者の姉マーリン、ユーハンとニクラス兄弟、末っ子のペッレの一家は、夏を過ごしにウミガラス島のスニッケル荘にやってくる。隣には、ペッレと同年で村の主のような少女 Cholben、ユーハンたちと同年ぐらいのティディとフレディ姉妹がいてとても近くなる。ユーハンたちがボートで遭難しそうになったり、ペッレがペットを手に入れたり、マーリンがボーイフレンドを作ったり、スニッケル荘が他の人に売られそうになったりするなど、さまざまな事件が起こる。

O：学校が出てこない、家族を描いているなど、前回の『メランコリー・サガ』と共通性がありながら、作家と作品の距離感も時代も異なる作品なので、その違いがおもしろいですね。

Y：いわゆる休暇物語ですが、個性豊かな登場人物が魅力的で463ページもあるのにあっという間に読んでしまいました。

O：特に末っ子のペッレと Cholben は最も幼いながらも村のできごとや人々の様子をしっかりと観察して、最後に、大活躍するところなど、リンドグレンの子ども観がよく出ていました。また、ペッレがスズメバチや、自分のペットのうさぎを殺した狐の命を助けようとするところにも、命あるものは平等であるということにも。

Y： Cholben が大人にでも率直にものを言う様子と、犬の水夫さんを愛するのと同じように、村の人やメルケルさん一家に示す愛情の深さは読みながらあたたかい気持ちになりました。また、ユーハンたち4人組が秘密クラブで秘密の小屋を作ったり、マーリンのボーイフレンドをことごとくからかったり、4人でボートに乗って遭難しそうになったりするの、まさにギャングエイジの子どもらしくて、自分の子ども時代を思い出しました。

この作品の中では、子どもたちが自分たちだけの時間を、プライドを持って過ごしており、子どもだけでいる時間の大切さを再認識しました。

O：これらの子どもたちに加えて何をやっても失敗するダメパパと、しっかり者で完璧な主婦としてのマーリンという家族の設定はやや古さを感じさせますが、それにもまして、島のくらしのなかにある小さい冒険や人間関係の密度の濃さが印象的でした。それにユーモアの味付けが抜群ですね。

Y：この作品を原作とした1964年に製作されたスウェーデンの映画「なまいき Cholben と水夫さん」が7月19日から日本で初上映されています。ぜひ、観てみたいです。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 47

その9 おはなしを語る（1）語りの魅力

おはなし会を絵本だけで構成することも可能ですが、「語り」という異なるメディアで「おはなし」を楽しむ場を提供することができれば、おはなし会がより充実します。

絵本は、子どもたちが絵を見て読み手の声を聞いて「おはなし」を楽しみますが、語りでは、語り手の声と表情だけで「おはなし」を楽しみます。つまり、語りは、絵本以上に聞き手との直接的なコミュニケーションになります。

かつて「むかし むかし あるところに」と語られていた「おはなし」は、現代では同じ形態で楽しむことは困難な状況ですが、図書館や幼稚園、保育所（園）、学校など、公共の場で語りの文化を継承しようとする活動が行われていることは意義深いことです。

さまざまなメディアでおはなしが楽しめる現代に、人の声だけでおはなしを体験することは、子どもにとって、語り手や聞き手と息を合わせ、想像をふくらませる貴重な機会です。語り手はおはなしの場面や人物をイメージし、聞き手はそのイメージを受け取ります。

語り手は、おはなしを覚え、それを自分のものとして語ったとき、何十年何百年の間、何十万人、何百万人もの人が語ってきたおはなしを自分が後世につなぐ役割を果たせることに気づき、厳かな気持ちになると同時に、おはなしを通して社会や人間の本質を語ることのできる喜びを感じることが出来ます。

* 次号は「その9 おはなしを語る（2）おはなしを選ぶ」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていききたいと思います。（Y）

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

一次資料データベース篇 27 回目。ご紹介するのは以下のサイトです。

●早稲田大学 古典籍総合データベース

<http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/index.html>

早稲田大学の図書館が所蔵する古典籍資料について、書誌情報とともに全画像を公開したデータベースです。

HPによると、〈総数は約 30 万冊、国宝 2 件、重要文化財 5 件を含むあらゆる分野の資料を、具体的詳細な書誌情報と、鮮やかなカラー画像でご覧いただける〉とのこと。

データベースは、児童文学・児童文化とも関連が深い「近代日本と早稲田～文学関係資料を中心として～」など、7つのテーマから構成されています。これらのテーマ別ギャラリーを個別に見ていくことはもちろん、特定のキーワードで横断検索することもできます。

〈こども〉や〈児童〉、〈少年〉〈少女〉などで検索すると、それらキーワードにかかわる引札・広告・錦絵・浮世絵・双六など一枚物、往来もの・養育書・啓蒙書などの教育関係書、また新聞・雑誌（附録）や図書・赤本などの印刷物から、児童文学関係者の書簡や原稿など、実に多様な資料が表示されます。

古いものでは、万治 2（1659）年の『伊曾保物語』（伊藤三右衛門）の上・中・下巻があります。全 3 巻 93 カットを掲載。解題や翻刻がないのが残念ですが、十分その雰囲気は味わえます。そのほか、「キシヤ・キセン・ヒコーキ スピード・キヤウソウ」（『コドモアサヒ』第 9 巻第 1 号新年大附録、

朝日新聞社、昭和6年)や、坪田譲治の作品「花とさかなと鳥」の自筆と思われる草稿(書き入れあり)なども。坪田は早稲田出身者ですが、旧蔵者の情報などがわかれば、さらに人的ネットワークなども追跡でき、興味深いデータベースになりそうです。(J)

※次号は、一次資料データベース篇〈その28〉の予定です。

《4》 行って来ました!

姫路市立美術館で開催されている「聖コージの誘惑 スズキコージの絵本原始力展」に行ってきました。

受付を入った通路から展示が始まっていて、展示室の中の壁面は、ライブペインティングで描かれた巨大な絵でびっしり埋め尽くされています。動物や人や村や景色が色鮮やかに描かれています。絵のすみずみまで自由に力強く、生きている感じがします。絵の躍動感や熱気や冷気を感じて、酔いそうな気分になりながら、作品リストを頼りに、近づいたり離れたりしながらじっくり見ていきました。

ライブペインティングの一枚の絵から場面をページに切り取ってつくられた絵本『ヤッホーホイホー』の原画もあり、一緒に展示されている絵本と見比べながら見ることもできます。『ゆきむすめ』や『サルビルサ』などの絵本の原画、便座を使った作品、お皿や地球儀やブリキのおもちゃに描いた作品、「愛用品」と書かれた外国の仮面や鋤、天井からはろうけつ染めの布や切り紙の飾りなどもぶら下がっていて、ほんとうにスズキコージ色の世界です。

展示のオープン前に公開で制作されたという、ダンボールなどで作られた「巨大妖精怪獣」もあります。また、制作途中のまま展示されているライブペインティングは、期間中に続きが行われるようで、完成したものがまた見たいと思いました。写真OKの場所には、絵本『ほね・ホネ・がいこつ!』を大きくした、顔出しパネルなどもあります。子どもも大人も楽しめる展示でした。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 生誕120年「武井武雄の世界展」

大正・昭和の子ども達は、このファンタジーで育ちました。

場 所：大阪高島屋 7階グランドホール(大阪市中央区難波)

日 時：8月6日(水)～18日(月)

午前10時～午後7時30分(最終日は4時30分)

料 金：有料 中学生以下無料

主 催：岡谷市、NHKサービスセンター、産経新聞社

◇ギャラリートーク

日 時：8月6日(水) 午前11時、午後2時

講 師：山岸吉郎(イルフ童画館館長)

● 資料展示「ハイジと妖精の国 スイスの子どもの本」

2014年、スイスと日本が国交樹立150周年の記念の年です。スイスには、『ハイジ』や妖精の絵本が人気のクライドルフなど、日本で親しまれている絵本が数多くあります。これらの本と新しいスイスの絵本を展示します。

会場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館（東大阪市荒本）

期間：開催中～9月21日（日） 休館日あり

料金：無料

主催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

後援：スイス大使館

◇「やってみよう スイス・クイズ！」

展示を見てクイズに正解すると「記念品」がもらえます。（先着 300名）

◇子ども向けイベント「おはなし会」＆「ギャラリートーク」

日時：8月5日（火）、26日（火）いずれも午後2時～3時

場所：同館こども資料室／国際児童文学館

対象：おはなし会 5歳以上、ギャラリートーク 小学生以上

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『わたしたちの島で』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.47プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は8月11日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

海外もいいな、沖縄もいいな、ゆったり温泉の旅もいいな、サッカー観戦も捨てがたい…。などと家族の好みと予算、日程の調整が難しく、結局はスペインならぬ志摩スペイン村で1泊が関の山。夏の予定はお早めに。メルマガ原稿もお早めに。いえ、私のことです…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL : 06-6744-0581 FAX : 06-6744-0582 E-mail : office@iiclo.or.jp
